

# 作文支援システムを使った「引用」学習課題の導入と展開

北村雅則(名古屋学院大) 山口昌也(国立国語研究所)

概要: 「引用」学習の目的と内容 ➡ 予備実験の結果と分析 ➡ 今後の展開(授業計画)

## ■ 「引用」学習の目的と内容

### ■ 「引用」の目的

1. 自説を主張する際の前提となる背景的知識, 先行研究の参照・確認
2. 自説を補強するための先行研究の肯定的な提示
3. 自説を展開するための先行研究の批判的な提示

### ■ 「引用」の現状

- レポートに何を書けばよいか分からないという現状
- 引用とコピー&ペーストを同一視し, 剽窃もしかたなしという風潮

### ■ 「引用」に関する基本的な学習内容

1. なぜ「引用」するのかを確認(目的の明確化)  
→安易なコピー&ペーストが剽窃であることを意識させる  
→適切な引用は自説を主張する際に有効な手段の一つとなる
2. 資料収集  
→信頼性や内容という点で引用に適した資料を見つけ出す(※webの場合)
3. 作文内容への適合  
→内容を満たした上で, 引用量を過少または膨大にならないよう抑制する
4. 引用の表記法・形式の学習  
→ブロック引用, インライン引用, 出典の表し方を習得する

## ■ 予備実験

### ■ 実践環境

- 対象: 大学1年生(1クラス20~30名程度×3)  
(有効被験者数55名)
- 課題内容: 「円高」についてwebで調べ, 引用する
  - 1.円高の概要
  - 2.円高のメリット
  - 3.円高のデメリット

- 目的 = 「引用」学習に関わるシステム支援の設計とそのための情報収集  
「引用」に関する学習内容の理解度測定, システム使用による分析の簡便化

### ■ 評価項目

1. 適切な資料にたどり着けたか  
→検索ヒット順や引用しやすいサイトから安易に引用していないか ➡ 概ね良好だが, サイトの信頼性について自覚的ではない(※ 表1・表2)
2. 内容・量ともに適切な箇所を引用できたか  
→課題に適した内容で, 過不足のない量を引用しているか ➡ 達成できていない学習者が多い(※ 表3)

表1:参照先(URL)の数

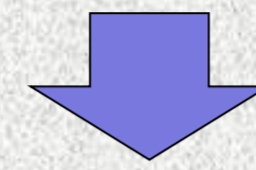
	延べURL数	異なりURL数
事象説明	55	18
メリット	55	22
デメリット	55	20

表2:異なりURLの重複数

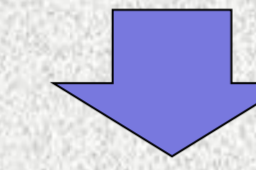
	重複ありURL	重複なしURL
事象説明	5	13
メリット	12	10
デメリット	8	12

表3:各項目の引用文字数

	中央値	最少引用文字数	最大引用文字数
事象説明	198	24	515
メリット	261	13	2163
デメリット	310	14	865



1. 情報の収集先が特定のサイトに集中するわけではない
2. 求められる内容を考慮した上で引用先を選定するが、引用しやすそうなサイトを選ぶ
3. 匿名性が高いサイトからの引用があり、内容の信頼性には盲目的な傾向



1. 課題に適した内容を満たさない(過不足がある)
2. 最少数は、定義文のようなものの抜き出しが多い
3. 最大数は、サイト全体または章節の抜き出しが多い

資料に概ねたどりつけるが、適切な箇所を引用できない(知識・読解力不足)

(課題設定、授業中の指示の不備により)引用の目的が明確に伝わらなかったことが要因

■ 今後の展開(授業計画) (1)引用目的の設定, (2)引用箇所の限定, (3)引用先の選定, (4)引用の表記法, の習得  
→作文支援システムの支援で学習効果を上げる

### (1)引用目的の設定

1. 学習者が興味を持ちやすく、対照的な意見に分かれる課題を用意する(教師)
2. 課題に対する一方の意見を引用する(教師)
3. 引用に対する意見の主張(学習者)
4. 学習者同士の相互添削

(例)  
終身雇用制について、以下のような議論がある。

終身雇用制には、××というデメリットがある。  
(△△より)

(引用文をふまえ、学習者が意見を主張する)

### (2)引用箇所の限定

1. 引用のあるレポート文を用意し、引用箇所を空欄にする(教師)
2. 引用する資料を固定し、文意に合う引用箇所を抜き出す(学習者)
3. 正解を用意(教師)
4. 抜き出した箇所の文字数や文字列から適切性を判断

適切性	文字列	文字数
高	○	○
中	○	×
低	×	×

5. 適切性によりグループ分けし、異なる適切性を持つ学習者同士で相互添削する

### (3)引用先の選定

1. 引用することが有効な課題を用意する(教師)
2. 引用の目的に適った資料を選定する(学習者)
3. 資料の内容や適切性に関するメモ(自己コメント)の作成(学習者)
4. 学習者同士による情報・意見交換

(自己コメント例)

- 著者(または、サイト管理者名)
- 作成日(サイトを確認した日)
- 情報の信頼性(公的・記名/私的・匿名)
- 選定に際し比較したサイト
- 選定理由

(4)引用の表記法 = (1)(2)(3)の学習過程において習得する。表記法の習得を機械によりチェックする